

平成25年度 水産業強化対策事業
(経営構造改善目標)事後評価結果について

整理番号	25-1	鳥取県	
メニューの内容	水産物流の強化	(施設名)	海水処理施設
事業実施主体	鳥取県漁業協同組合		
評価期間	平成26年度～28年度		
事業費	31,000 千円		
交付金額	15,500 千円		
成果目標	3年間の総便益	10,647 千円	
実績値	3年間の総便益	13,114 千円	
成果目標の達成率	123.17 %		
事業の目的	<p>網代漁港では港内の海水を直接取水し、市場内の各施設(荷捌き場、活魚水槽、魚箱の洗浄等)で使用しており、決して衛生的な環境とは言い難い状況にある。また、当漁港は河口部に位置しており、降雨後には濁り水が港内に流入し、塩分濃度の低下、水質悪化等により活魚販売や畜養に大きな支障を与えている。そこで、漁港区域内に井戸を掘り海水を取水して、活魚の安定供給を図るとともに、滅菌海水装置を併設し、より安全で安心な魚介類の供給を目指す。</p>		
事業の成果	<p>海水処理施設を整備したことにより、市場での評価が高まり対象魚種の単価は上昇傾向にある。 しかし、漁獲量については年変動があるため単価の向上が漁獲金額向上につながらない場合もある。そのため、岩ガキについては、滅菌海水処理を行い出荷した金額を便益として算出した。また、ケンサキイカについては、沿岸域で魚群が形成されたことに伴い、基準年の2～3倍の漁獲量となり水揚げ金額が増加した。これは、海水処理施設整備と直接関連のない要因の増加であるため、活イカの出荷金額のみを便益とした。</p>		
その他特筆すべき事項	<p>海水処理施設整備後、漁業者等が安心して活魚販売や畜養を行えると評価されている。 また、冬季(11～3月)のズワイガニ(松葉がに、若松葉)の活魚水槽にも利用されている。</p>		
成果目標が未達成の場合はその理由及び改善方策			
備考			